

あなたの力で、過去を未来に。

2018(平成30)年、設立から70年を迎えるにあたって、国立国会図書館は一つの標語を掲げました。それは、「過去を読み、未来を読む。」です。現在国立国会図書館が所蔵する4300万点を超える資料は、いずれも貴重な文化的資産であり、これを保ち、未来に伝え、文化の発展に資することはこの図書館の重要な役割です。

国立国会図書館は、1948(昭和23)年に設立された国会の一組織です。そして、国立国会図書館法には次のように記されています。

「真理がわれらを自由にするという確信に立つて、憲法の誓約する日本の民主化と世界平和とに寄与することを使命として、ここに設立される。」(国立国会図書館法前文)

この使命を果たすための主要な機能に、1. 国会活動の補佐、2. 資料・情報の収集・保存、3. 情報資源の利用提供、があります。

1. 信頼できる資料・調査によって国会の諸活動を補佐する
2. 国内外の資料・情報を収集し、体系的に整理し、長期に保存する
3. 立法府のほか、行政・司法、一般公衆にも、利用目的にかなった情報資源を提供する

これらを機能させるために、国立国会図書館は中期ビジョン「ユニバーサル・アクセス2020」を定めました。情報環境の急速な進歩や社会状況の変化に対応する際にも、図書館には「ユニバーサル(普遍的)」な視点が必須と考えるからです。時間も空間も超え、過去の文化資産を未来にいかし、人々の多様な在り方に配慮しつつ、唯一の国の図書館としてその使命を果たし続けて行く必要があります。

専門分野にとどまらない柔軟な思考力を有し、豊かな未来を描いて挑戦する意欲をもった方々がこの図書館でその力を発揮されることを期待しています。

国立国会図書館長

羽入 佐和子



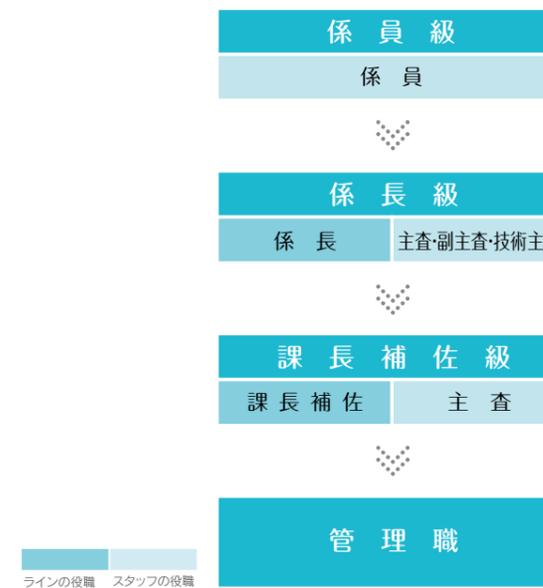
国立国会図書館職員の概要

国立国会図書館は立法府に属し、国会、行政・司法の各部門及び一般公衆に対して幅広いサービスを提供しています。国立国会図書館の業務は調査業務・司書業務・一般事務に分けられ、総合職試験、一般職試験での採用者はこれら三つの業務の様々な仕事を担います。職員の身分は国会職員(特別職国家公務員)で、東京本館(東京都千代田区永田町)、関西館(京都府相楽郡精華町)又は国際子ども図書館(東京都台東区上野公園)で勤務します。職員の定員は888名(平成30年4月現在)です。

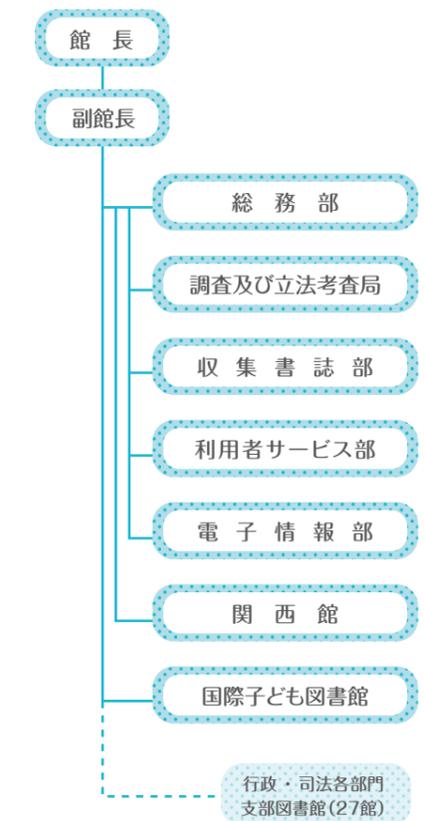


キャリアパス

国立国会図書館の職員は、定期的な異動によって様々な部署や業務を経験し、多様なキャリアを歩みます。学歴、専攻に関わらず、職員の適性や希望等を考慮して、配属先を決定します。総合職試験採用者と一般職試験(大卒程度)採用者の間に職務内容の差はありません。



組織図



職員統計

